

国際サーカス村通信	VOL13NO5	2009年1月12日(月)
		文責 西田 敬一
編集 NPO 法人国際サーカス村協会	〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1	
Tel0277-70-5010 Fax0277-97-3688 <a href="mailto:mura@circus-mura.net">mura@circus-mura.net</a> <a href="http://www.circus-mura.net">http://www.circus-mura.net</a>		

## 迎春 2009年

とんでもない年が始まりました。なんでも 100 年に一度の大チャンス的一年だそうです。禍転じて福となす。その可能性にまい進すべき年だそうです。こんな年に物ぐさ太郎になって、柵からぼた餅が落ちてくるのを待つなんて、そんな勇氣はありませんが、本当の物ぐさ太郎は、柵からぼた餅が落ちてきても、その落ちたところまで、腕が届かないと、じろりとそいつを睨んだ後は食うことはあきらめ、次のぼた餅が口元に、あるいは手の届くところに落ちてくるのを待つそうです。この世の中、そんな本格的な物ぐさ振りを発揮すれば、まず飢え死にするのは間違いありませんが、これも参考になるというか、そんな物ぐさ太郎がいるかもしれないかと思えば、どこか心にゆとりのようなものが芽吹いてくるかもしれません。

いい按配にといいますが、今、サーカス学校は長い冬休みの真っ最中なので、この期間に、なにか面白い企画というか試みのアイデアが生まれてこないかなと、それこそそのほほとアイデアがでてくるのを待っています。

何も無いわけではありません。そのひとつは、昨年始めた“マールイ・サーカスの一日”の先の作品作りをどうするかを考えています。この公演をご覧になった方々の多くから、いいショーだったのでまたやってほしいといわれるのはありがたいのですが、生徒たちは毎年入れ替わるので、同じショーはできないのです。いま、ボクの頭の中で遊んでいるイメージは、5～8名ぐらいの構成で、サーカス技だけではなく、ほかのアクトというか動きをいれたものを作りたいなと思っています。しかしそれをやるにしても、一方では新しいサーカス・アクトを身につけてくれる生徒がでてきて、それがまた、ショー全体に幅というかふくらみが出てくるような構成にならないかなという夢もあり、ショーの構成がすぐにできあがるというわけでもありません。そんなことをぼんやりと考えている次第です。

### 八年度前期卒業生

今期をもって、サーカス学校を卒業するのは、高橋七奈さんと末廣祥久君、宮川一馬君。高橋さんはキグレサーカスに。末廣君はカナダ・ケベック市のサーカス学校に留学、宮川君は、京都の親元に帰ります。(別紙ご参照)

また、Ja・るーかの上坂直之君と堀口晶子さんが、昨年11月22日に入籍を済ませ、サーカス学校第一号のカップルとなりました。

そして一度卒業し、再度、戻ってきて練習をしていた西山馬來君は、今期でサーカス学校を離れますが、今春から東町で就職したいということで、就活をおこなっています。

サーカス学校を離れても地元で活動する、新しい生活を始めてくれるというのは、ここを、ここでサーカスを学んだ人々、サーカスに関係した人たちが、ここを第二のふるさととしてもらいたいと願っているボクにしてみれば、このようにさまざまなかたちで、この地にとどまってくれる、また、帰ってきてくれるのは、実にありがたいことで、いわば、サーカス文化が少しずつ大地に沁みこんでいくような気がします。

### カンボジアとの交流

いま、ふたつのプロジェクトというか、企画が進行しています。ひとつは、サーカス学校と直接、関係している企画ではないのですが、狂言とカンボジアの伝統芸能・舞踊に登場する、ハヌマンという猿の仮面をかぶったキャラクター、その演技との交流ができないかというもので、近いうちに、茂山狂言の茂山あきらさんと一緒にカンボジアへ行き、ワークショップを行なってくる予定です。これが第一歩で、その後、どのような展開になるかはまだ全くの未定です。

もうひとつは、カンボジア・サーカス学校と当校とのコラボレーションで、三月中旬から、当校の松本真理さん、鶴貞浩君の両名がカンボジアへ行き、先方のサーカス学校が作る作品に参加し、その公演を四月に行なわれるフェスティバル“ティニ・ティノ”で発表するというもの。どんな作品ができあがるか楽しみです。また、クラウンのふくろこうじ君も参加し、ワークショップと彼の公演も行なう予定になっています。

### 月例会

議 題	国立サハサーカス（ロシア連邦サハ自治共和国）を訪問して
報告者	大島幹雄 辻卓也
日 時	2009年1月30日（金） 18：45～21：00
場 所	千駄ヶ谷区民館
問合せ	03 - 3403 - 0561（ACC）

### 2008年12月 月例会 猿まわし同行大道芸の旅 報告者：上島敏昭

今から十年以上前になりますが、1997年8月8日から8月30日まで、「大道芸里めぐり」と称して佐渡島を猿舞座の村崎修二さんと共に、大道芸巡りを行いました。同じ大道芸をするのでも、イベントに呼ばれて行く旅ではなく、昔の大道芸のように、旅回りで大道芸を続けることに興味がありました。一昔前は村々に年に一度や二度は、生の芸がやってきましたし、テレビの普及前は巡回映画、掛け小屋の芝居や、見せ物もやってきて、村に住む人たちをワクワクさせて、また立ち去って行く、芸能とはそんなものだったのではないかと思います。「大道芸里めぐり」ではそのような現在ではほとんど芸能がやってくるののない集落をひとつひとつ訪ね、芸能を演じてみようという試みです。村崎さんとは1990年くらいから一緒に各地で旅を続けていますが、この旅は3週間以上なので、いつもよりは長く、しかも佐渡島という一カ所をこれだけあちらこちらと回るのは稀なことです。この時の旅は大分慣れてきている時期でも

あり、それまでの旅回りの集大成とも言えます。

佐渡は周囲 200km 以上あり地域ごとに多様な顔を持っています。島の北半分の大佐渡、南半分を小佐渡と呼び、その二つの間にも大きな違いがあります。中世以降は流人の島でもあり、日蓮上人、世阿弥、順徳天皇などが流されました。流される島というのは、自給自足が可能な島でもあり、魚介類が豊富に獲れ、米作りも盛んなんですね。

村崎さんが佐渡に行くようになった理由として、宮本常一さんの影響があります。宮本さんと村崎さんの出会いで、猿回しが復活したといっても良いかもしれません。宮本さんの晩年、村崎さんは良く会っていたようで、宮本さんがその頃一番良く行っていたのが佐渡でした。村崎さんの提唱で、1984年に佐渡芸能大学というのが開催されました。佐渡内外から芸能伝承者や研究者を集め、島内に伝承されていた様々な芸能を一堂に会して上演、シンポジウムを開くという催しでした。佐渡には、能舞台もたくさん残っており、伝説や民謡も豊富です。文弥人形、のろま人形、春駒、ちょぼくりなど、非常に貴重な芸能が伝承されています。佐渡は芸能者も良く集まってきて、それこそ「ドサ回り」とは売れない芸人がサドに集まるからドサと呼ばれている、という説もあるくらいです。宮本さんと佐渡のかかわりといえば、「鬼太鼓座(おんでござ)」というのもあります。「鼓童」のもとになる「鬼太鼓座」は宮本さんの紹介で佐渡に渡ったはずですが、今回は、「鼓童」のアースセレブレーション(ES)に参加することになり、それを機に今まで何箇所かで行っていた「里めぐり(津々浦々めぐり)」もやってみようと計画しました。97年8月7日に佐渡に入り、8日から両津市(現:佐渡市)の夷通り商店街から公演を始めました。

公演の内容は場所にもよりますが、大道で行う場合、最初にトラックの荷台に乗って、「町触れ」をして住民に告知をしてから、私が先に綾取り、竿立て、輪鼓などの「放下芸」を演じ、その後村崎さんが「猿まわし」を演じます。芸の導入としてマジックバルーンを組み入れた時もありました。これは公演後結構売れ、厳しい経済状況の援護にもなりました。(以下、演芸の解説です。)

綾取り:太神楽の放下芸のひとつで、西洋のジャグリングのデビルスティックと同じ物。三本の棒を使い、両手に一本ずつ持った棒で、第三の棒を生きているように動かす芸。15~20分

竿立て:太神楽の水の曲の一部で、竿を額などに立てる芸。竿をつなぎ、重りの玉を竿の先の受け皿に投げ入れるところからみせるようにした。10~15分。

輪鼓:ジャグリングのディアボロ。中国では拉鈴<ツーリン>と呼ばれる空翔ぶ独楽。20~25分。

猿まわし:輪抜けと一本杉の芸。輪抜けは3本の輪を使い、最初は一つの輪を月に見立てて兎跳び、二つを並べて鷲の谷渡り<水平跳び>、二つを重ねて鯉の滝登り<垂直跳び>、二つを組んで狭き門、三つを組んでボール型にして天神さま。一本杉は、イスの上に積み木を一つ一つ積み上げて、その度にその上に猿を直立させる。最後に長い棒の上に直立させるのが見せ場。そのあと、子供に猿を抱かせたり、触れさせたりもする。)

8日から、30日までは下記のように各地をまわりました。

8月8日 雨 両津市夷通り商店街(七夕川開き祭り)・第四銀行前のアーケード下

- 8月9日 晴 畑野町猿八・旧猿八小学校校庭
- 8月10日 雨 佐和田町河原田商店街(獅子が城祭り)・ほくぎん前アーケード下 / 佐和田町河原田商店街・下町の路上
- 8月11日 晴 佐和田町・河原田小学校グランド(獅子が城祭り)
- 8月12日 = 相川町達者・尖閣湾レストハウス前
- 8月13日 = 相川町羽田(羽田祭り)
- 8月14日 = 畑野町多田港(第20回ふれあいの里祭り)
- 8月15日 = 相川町入崎・入崎キャンプ場 / 両津市・原黒農協前広場(盆踊り会場)
- 8月18日 = 両津市鷺崎・海府保育園 / 両津市願・公民館
- 8月19日 = 新穂村・岩ノ平園 / 両津市水津・おふどうさん公園 / 両津市姫崎・国民宿舎「姫崎」
- 8月21日~24日 = アースセレブレーション(EC) / 小木町小木港公演脇
- 8月25日 = 相川町稲鯨・漁協前広場
- 8月26日 = 金井町・大慶寺境内本堂前
- 8月27日 = 赤泊村・総合文化会館前広場
- 8月28日 = 羽茂町・草刈神社能舞台(大芸能絵巻・草刈り神社であそばんかっちゃ)
- 8月29日・30日 = 小木町・小木祭・港の公園脇

雨の商店街のアーケード下から公演を始めて、廃校の小学校校庭、空き地、下町の路上、港、盆踊り会場、保育園、キャンプ場、公民館、国民宿舎、野外フェスティバル会場、お寺境内、最後は能舞台と毎日、様々な場所で公演を行いました。会場によって、お客さんも多かったり少なかったり、投げ銭があつまったり、あつまらなかったりと、様々でしたが、やはり公演を成功させるために大切なのは、いかに前もって公演の情報が行き渡っているか、というのがポイントだったと思います。公演場所は、常日頃よく人が集まるような場所、公園や寺社境内などが良いですね。各公演には必ず「世話人」という方がいて、この旅の4ヶ月前に、村崎さんが佐渡の知人達に声をかけて、公演の世話を依頼しました。世話人の方には、所定の場所で公演を出来るようにしてもらうこと、地域のおもだった人に公演の承諾を得て、地域住民に公演を知らせること、有線放送やポスター、口コミなどで情報を流して貰う、などをしてもらいました。出来れば、ポスターやチラシは自分で用意した方が良かったかもしれませんが。今回の経済状況は基本的に投げ銭で賄っていましたが、なかなか厳しいものがありました。「投げ銭で」という話が現地に十分に行き渡っていない所もあり、こういうことは出来るだけ、前もってしっかりと伝えなくてはならないことがよくわかりました。

この「里めぐり」という企画から考えると、各地を回るのは大字(おおあざ)単位くらいが妥当だと思われ、実際に、猿まわしと大道芸という二人と一匹のコンビは、200人くらいの観客でないとその持ち味は伝わりにくいと思います。大字単位が好ましいのは、観客同士が知り合いであるため、古い時代の寄り合いのような暖かい雰囲気会場に自然にできあがり、これが里巡りの演芸に望ましい形だと思えます。これが一町村単位になると、規模が大きすぎてしまう。また、観光客相手に大道芸というのは、ほとんどダメですね。キャンプ場なんかは最悪でしたし、やはりいかに地域・地元の方に見て貰うかが大事だと思えました。この時の公演の形態は(1)地域巡り

(大字単位ぐらいの演芸会)(2) .祭りの余興(祭り行事のひとつ。または、盆踊りの人寄せ)(3) .施設慰問(障害者施設その他の慰問)(4) 地域との合同公演(地元の演芸との交流)4つに分けられると思います。里巡りの趣旨としてはやはり(1)が中心です。旅の途中で通りがかりの人から急に声をかけられて実現した公演もありました。このようにいくつか公演形態がありましたが、合計22回公演を行って、トータルの観客数が4,255人、集まった投げ銭が722,217円です。この投げ銭から宿泊料やガソリン代など、その他の経費を引くと、総収入は306,298円となりました。正直なところ経済的にはきわめて苦しい旅でした。

あれから十年たって、その後も村崎さんと旅をしていますが、3週間を超えるこんなに長い旅は後にも先にもありません。この当時宿に泊まっていて、佐渡では宿舎として利用したのは「国見荘」という民宿と弘仁寺という2カ所。朝食付で5500円と4000円と、通常より安くしていただいたのですが、それでも経費の大きな部分で経済的に厳しい。それで今では宿には泊まらず、いろいろとただで泊まれる所を発掘してきました。この時以降、2000年頃から大道芸が一般化して投げ銭があつまりにくい時期がありました。車中泊も何度かしましたが、そうすると気の毒がってお誘いがあつたりして、だんだんタダで泊まれる所が見つかってきました。この十年前と今も、基本的に同じ形態で旅をしていて、村崎さんが解放運動もしていたこともあって、人をオルグすることに長けていました。ネットワークを作る意味も含めて、こういう活動をするようになりました。こんな所で、芸能が成立するんだなと、どういう時に町の人に気に入られ、どういう時に嫌われるかなど、いろいろわかりました。

大島：今でも投げ銭は少ないですか？上島さんは一年間にどのくらい旅をしていますか？

上島：投げ銭は時々によります。主催者がしっかりしていると投げ銭も入りやすい。今年は4月くらいから行き始め、60~70日くらいです。村崎さんは2週間旅にでて、一度戻ってくるようなスケジュールです。今年は息子さんと同じく猿まわし師の耕平さんと共に北海道へ行ったそうです。村崎さんは年間250日位旅に出ていると思います。

大島：猿はどうやって移動しているのですか？

上島：猿もワゴン車で一緒に移動しています。場所によって猿の持ち込みが厳しい所がありました。猿がどのルートで移動するか、いつ檻から出すかなど、いちいち申請しなくてはならない。危険物連行届けという面倒な手続きがあります。今は簡略化されましたが、その代わり全国どこでも申請しなくてはならなくなりました。

猿は劇場ではあまり芸をしません。幕を気にしたり、クーラーの風などが気になったり、気が散るのです。まったく芸をしない可能性があります。大道でやって子どもが小さくてたくさんいるところだと猿もやりにくい。猿は子どもに威張ろうとする。女子供老人に強く、まさに上下関係で生きている生き物です。

この佐渡の旅のように、旅回りは先にルートを組んで行かないと厳しいですね。急に行っても情報として現地に行き渡っていないと、突然訪れて公演をしても無理があります。昔のように毎年同じ時期に同じ場所へ行けると良いわけです。村崎さんにちゃんと制作がつくときと良いのですが、もしかしたらそれはそれで、芸と興行の間が離れていってしまう可能性もあります。伊勢太神楽など毎年同じ時期に同じ場所へ

行くことが、良い形につながっています。毎年来るものが、急に来ないと住人も気持ちが悪いです。あるところで、行かなくなってすぐに火事が起きたことがあって、そしてらやっぱりまた来てほしいという話になった。たとえば猿が魔除けや厄払いのようなことが出来れば、もっと需要が増えるのじゃないかな。太神楽の獅子によるカマド祓を待っている人が多いですから。

(辻卓也 記)

出席者：大島幹雄、大野洋子、上島敏昭、上島由紀、高須賀優、辻卓也、西田敬一（五十音順 敬称略）

## 各サーカス団コース

### 木下サーカス

宮崎公演 2008年12月13日(土)～2009年2月3日(火)

休演日 毎週木曜日と1月14日(水)

会場：宮崎市塩路 2779 平和リース広場特設会場 電話：0985-39-0333

大分公演 2009年2月15日(日)～4月14日(火)

休演日 毎週木曜日と2月18日(水)、3月18日(水)

会場：大分スポーツ公園 H 駐車場 特設会場

電話：097-533-0045(2月10日まで) / 097-551-0045(2月11日から)

### キグレ New サーカス

高知公演 2009年1月1日(木)～2月22日(日) 休演日：毎週木曜日

会場：イオン高知東隣特設会場 電話：088-803-9550

### ポップサーカス

沖縄公演 2008年12月27日(土)～2009年2月22日(日)

休演日：毎週木曜日 会場：豊崎タウン内特設大テント会場 電話：098-851-1101

新潟公演 2009年3月14日(土)～2009年5月17日(日)

休演日：毎週木曜日 会場：新潟市万代島特設大テント会場(ときメッセ近く)

電話：025-283-2206(3月1日まで) 025-247-0071(3月2日から)

### 東京ドーム・ニクーリンサーカス

1月18日(日)～3月7日(土)

東京ドームシティわくわくダイヤル 03-5800-9999

### ジンガロ「BATTUTA バトゥータ」

1月24日(土)～3月26日(木)

木場公園内ジンガロ特設シアター チケットスペース 03-3234-9999

シルク・ドゥ・ソレイユ「CORTEO コルテオ」  
2月4日(水)~5月5日(祝)  
原宿・新ビッグトップ インフォメーションデスク 03-5237-7120

さくっとパントマイム

高田馬場 BABACHOP シアター

第13回 1月16日(金) 出演：京本千恵美 バーバラ村田朋未 今川雅一

第14回 2月20日(金) 出演：柴崎岳史 堀江のぞみ バロンなかざわ

さくぱん若手版 1月23日(金) 出演：芦屋達也、いちょう、岡野哲哉、  
五十殿裕生、三浦モトコ、本城哲浩

TOKYO マイムシティ 03-5449-3204